



Das erste Sakuma Musik-Festival
大久保音楽祭
Memorial Book

佐久間町



町長あいさつ

第1回「さくま音楽祭」は、町民の皆様をはじめ関係する方々から多大なご支援とご協力をいただき、大きな成果をあげて無事終了することができましたこと、心より厚くお礼申し上げます。

当町では平成2年に開催したウィーン青少年管楽フィルハーモニーによるダムコンサートがきっかけとなつて、以後毎年ウィーンフィルハーモニー管弦楽団首席トロンボーン奏者カール・ヤイトラー氏を招き、町内小・中・高等学校への児童、生徒はもとより、町の吹奏楽クラブへの音楽交流指導をはじめ、音楽に対する理解と演奏技術の向上や国際感覚の醸成を目指して国際交流音楽指導講座を開設して参りました。この指導講座も5年を経過し、町民の音楽に対する関心にも大きな変化が見られるようになり、文化活動の拠点施設「歴史と民話の郷会館」の開館とともに「ウィーンの音楽による町づくり」の活動が新たな段階を迎えました。

こうした中、「山岳地域に育つ音楽」を佐久間から全国の音楽愛好者に呼びかけて行つた「さくま音楽祭」は、北は北海道から南は中国地方まで多くの皆様に参加していただきました。

今後は、この記念すべき音楽祭を礎に更に発展させ、参加者との交流を通して佐久間の魅力づくりを推進し、息の長い音楽イベントとして定着させたいと願っております。

終わりに、この音楽祭に参加いただいた音楽愛好者の益々のご発展と一層のご支援をお願い申し上げ挨拶いたします。



ご挨拶

1996年第一回佐久間音楽祭によせて

佐久間町は、音楽祭創立によって、日本における吹奏楽文化に、非常に大きな貢献をしました。そして、この音楽祭に参加できたことは、わたしにとっても、オーケストラにとっても大変喜ばしく、名誉なことでもあります。そして、今後も引き続き、この音楽祭に喜んで協力していきたいと思ひます。

新しい音楽堂が建設され、佐久間町は、各方面の芸術家たちがその才能を発揮し、住民の皆様を喜ばせる場を提供する、重要な基盤を築き上げました。

山田先生率いる佐久間の二つの吹奏楽団、瓜生先生、今井先生、佐藤先生がそれぞれご指導されています大阪、札幌、天竜の吹奏楽団の方々の喜びあふれ、熱のこもった演奏を聴き、この佐久間に、芸術の重要な基礎となるものが、しっかり根付くのを感じ、また確信いたしました。

願わくば、この音楽祭に参加した演奏者のみなさまが、音楽祭を楽しみ、また響きの美しさに感銘し、音楽を演奏する喜びが、より一層大きなものとなって、心に残っていますように。

皆様と、心と音楽を通して結ばれている

カール・ヤイトラー

1997年3月8日 グラーフェンバッハにて

第1回 Das erste Sakuma Musik-Festival さくま音楽祭

平成8年11月16日(土)、17日(日)

佐久間町歴史と民話の郷会館



- 小・中学生の為の音楽講座
- ウィーン管楽セミナー
- ウィーン管楽セミナー・ファイナルコンサート
- さくま音楽祭記念講演会
～オーストリアの生活を知ろう～
- さくま音楽祭記念コンサート
～フィルハーモニック・ウィンド・オーケストラ・ウィーン～
- さくま・ウィーン合同物産展

●9:30→10:30

小・中学生の為の音楽講座／大ホール

平成7年9月に行われた国際交流音楽講座に続き、第5回目となった音楽講座。今回はヤイトラー氏のほか、フィルハーモニック・ウィンド・オーケストラ・ウィーンのメンバーも加わり、会場も学校から新しく出来た佐久間町歴史



と民話の郷会館大ホールに移して行われました。本場ウィーンから来た音楽家の奏でる音色に、佐久間町の小・中学生は、目を輝かせながら聴き入っていました。



●11:00→11:15

開会宣言／大ホール

今回のさくま音楽祭の核となった「ウィーン管楽セミナー」。

この管楽セミナーの大きな特徴である「ブラーズ・カペレ」の楽しい練習の仕方を一流の音楽家から学ぼうと、全国から年齢・職業を越えて、様々な管楽愛好家が集まりました。開会宣言では、このセミナー参加者の他に、来賓の方も迎え、さくま音楽祭の成功を

願うと共に、主催者を代表して小原町長より参加者へ歓迎の熱いメッセージが贈られました。



●11:15→12:10

ウィーン管楽指導講習会／大ホール



ヤイトラー氏によるウィーンのブラーズ・カペレについての講習会。ブラーズ・カペレの成り立ちなど、歴史に触れながら、約1時間にわたってお話して頂きました。なお、「ブラーズ・カペレ」という言葉についてですが、世界には、様々なスタイルの吹奏楽があります。同じブラスバンドでも聴き比べてみると、国や地域によって、基本的な音色・編成・楽器にそ

れぞれ特徴をもっていることがわかります。日本では一般的に吹奏楽団のことを「ブラスバンド」と呼びますが、ウィーンではウィーンスタイルの吹奏楽団を「ブラーズ・カペレ」と呼びます。このセミナーではウィーンスタイルの吹奏楽を体験して頂くことから「ブラーズ・カペレ」と呼びました。

●12:10→13:00

ランチタイム

お昼は楽器別に別れての食事となりました。年齢も職業も違いますが、そこは同じ楽器を奏でる者同士。初めての顔合わせで、それぞれ話をはずませていました。

また、会館の外で行われていたウィーン・佐久間物産展でおみやげを買う姿も見られ、旅の疲れも忘れて、銘々自由な時間を楽しんでいました。



●13:00→14:20

ウィーン管楽公開講座 I／会議室ほか

午後からは楽器別に別れ、フィルハーモニック・ウィンド・オーケストラ・ウィーンのメンバーによるクリニックが行われました。ウィーンのメンバーを前に、最初はやや緊張した面持ちでしたが、それも

くに打ち解けて真剣な表情の中にもあふれる笑顔は「音楽を楽しんでいる姿」そのものでした。クリニックは約1時間20分にわたって行われましたが、中には終了時間に気づかず、「まだやりたーい」とい

うパートがあったほど、受講生にとって内容の濃い時間になったようでした。



ウィーン・佐久間合同物産展 11.16・17／オーフンスペース

さくま音楽祭では、同時開催として「ウィーン・佐久間合同物産展」が開催されました。ウィーン物産展では、チーズやワイン、コーヒーなどオーストリア・ヨーロッパを代表する特産品をはじめ、モーツァルトのブロンズ像や楽譜などの音楽アイテムも展示販売されました。実は、今回販売にかけつけてくれたギーブさんは、ウィーン・フィルメンバーや日本を代表する指揮者小澤征爾氏など名だたる音楽家との交流が深いそうで、今回

も音楽ファン必見のインテリアがたくさん並んでいました。

一方、地元佐久間町の物産展では、特産の柿餅やそば、五平餅などの食べ物が並びました。佐久間町ならではの手作りの味に、みんな大喜び。また、会館でも使われている佐久間町オリジナルの譜面台は、その木のぬくもりと機能性に注目が集まっていた。



●14:40→16:30

ウィーン管楽公開講座Ⅱ／大ホール

この講座では、ブラス・カペレごとの全体合奏指導となりました。あらかじめ練習してきた課題曲を、

直接ヤイトラー氏の指導を受けることにより、短い時間ではありましたが、確実に一つの音色－ウィー

ンの音色にまとまっていくのがわかりました。



●17:00→18:30

ウィーン管楽セミナー・ファイナルコンサート／大ホール

ファイナルコンサート＝セミナーの集大成として、セミナーで得たものをコンサートという形で発表する場です。会場には、来賓の方はもとより、たくさんの町民が集まりました。

小原町長の挨拶、坂本静岡県副知事の祝辞、ヤイトラー氏のセミナーの講評と続きました。

いよいよ演奏です。佐久間高校＆佐久間町吹奏楽クラブの課題曲演奏にはじまり、各ブラス・カペレの課題曲の披露が行われました。あわせて、大阪滝井高校及び札幌大学吹奏楽団の招待演奏、フィルハーモニック・ウィンド・オーケストラ・ウィーンの演奏も行われました。

そしてなんといっても感動的だったのが、フィナーレとなった受講生及びウィーンメンバー全員によるラデツキー行進曲の演奏です。会場からの手拍子も加わり、ホール全体がウィーンの音色で包まれました。



ホームステイ

少しでも佐久間町のことを知ってもらおうと聴講生に対しホームステイを募集したところ、野中夫妻が佐久間町歴史と民話の郷会館の森下館長宅に宿泊することになりました。

山の寒さが感じられる11月でしたが、こたつを

囲み、佐久間の歴史や音楽祭のことなど時をたつのも忘れて、温かいひとときをすごしたようでした。



●18:45→20:00

交流会／小ホール

ヤイトラー夫妻、フィルハーモニック・ウィンド・オーケストラ・ウィーンのメンバー、セミナー受講生、聴講生などが参加した交流会。ヤイトラー氏を中心に交流の輪が広がりました。



参加者からのメッセージ

札幌大学吹奏楽団

団長 安田知行

今まで団として北海道を出たことのなかった私達にとって、静岡行きの準備は大変なものでした。何しろ行ったことのない土地であり、地理的なことは何一つ分かりません。移動手段・宿泊場所・楽器の運搬・スケジュールなど、手探りで準備が続きしました。しかし、現地の方々のご好意のおかげで何とか準備が整い実現できました。こういった方々のご協力なしには成功は有り得ず、大変感謝しております。

11月16日、さくま音楽祭が始まり、私達は歴史と民話の郷会館へ到着しました。まず、ホールが大変立派なことに驚きました。歴史と民話の郷会館はさくま音楽祭を実現するために作られたと聞いて、佐久間町の音楽に対する熱意に感心させられました。ウィーン管楽セミナーにおいては、個別楽器指導・合奏指導というメニューでしたが、どちらも楽器の演奏技術を向上させることなく、ウィーンの音楽を楽しむことに重点が置かれ、他では体験できないような意義深い内容でした。日頃、本当の意味で音楽を楽しむことを忘れがちな私達にとって、本場のウィーンの音楽に直接触れることができたのは貴重な経験であり、多くのことを学ぶことができました。素晴らしい企画だったと思います。

私達にとって、静岡行きは実りの多い旅行となりました。このような企画は毎年行い、更に充実させて行って欲しいと思います。私達も機会があれば、また参加したいと思っています。

最後になりましたが、惜しみないご協力とご尽力を頂いた静岡の皆様深く感謝し、スタッフの方々に敬意を表すと共に、「さくま音楽祭」のより一層のご発展を心より祈念致します。



ミュージック・カペレ・デア・シュタット・さくま (佐久間町吹奏楽クラブ) 代表 仲市恵子

私達、佐久間町吹奏楽クラブは、発足以来、毎年、ヤイトラー先生の直接の御指導を賜るという大変有難い恩恵を受けているわけですが「さくま音楽祭」では、更にフィルハーモニック・ウィンド・オーケストラ・ウィーンの皆様に接する事ができ、楽器別個別指導を受け、記念コンサートでは同じステージ上で四曲も合同演奏させて頂くという、夢のような素晴らしい体験ができました。

また、遠くより参加頂いた札幌大学、大阪滝井高校の皆さん、そして顔馴染みの方も多い天竜市民バンドの皆さん、それぞれの演奏はボリューム、テクニックの点でも大変素晴らしく、世間知らずの未熟な私達にとって、とても良い刺激、勉強になりました。

私が個人的に特に感動した事は、あの二日間で直にウィーンの音色に触れた事です。うまく言葉では言い表せないのですが、柔らかい発音や円やかな音色がまさに「ウィーン風」なのです。私はフルートですが、短い個別指導の中でもテクニック以前に運かに大切な事、吹く時の姿勢や音楽的にイメージして吹かなくてはならない事を教わりました。

大きな感動を与えて下さったヤイトラー先生御夫妻とウィンドオーケストラの皆様へ感謝!! 遠路この山間の地に来て下さった札幌・大阪・天竜吹奏楽団の皆様へ感謝!! 演奏会を聴きにきて下さったお客様に感謝!!

そして「さくま音楽祭」を影で支え盛り立てて下さったスタッフの皆様へ感謝!! 心から「ありがとう」を言いたいです。



大阪滝井高等学校吹奏楽クラブ

斉藤麻里

私にとって、さくま音楽祭はいつまでも心に残る良い経験となりました。一番感激したことは、やはりフィルハーモニック・ウィンド・オーケストラ・ウィーンの人々と音楽を通じて交流を深めることができたことです。言葉は通じなくても、一緒に音楽をすることで、心がつながるんだということがわかり、とても素晴らしいことだなと思いました。それに他の地域から来られた音楽団体の皆さんとも、沢山お話することができたのでとても嬉しく思いました。音楽祭だけではなく、お世話になった旅館の方々は、とても親切で私達を快く歓迎して下さいだったので、心が温まるような気持ちになりました。それに、静岡県ということもあり、自然がとても美しいのに驚きました。普段、大阪ではあまり目にすることができない自然の山や、夜空に沢山広がる数々の星を見ると、なんだか心が洗われていくような気がしました。

短い期間でしたが、なにかとても大切なことを教えてもらったような気がします。佐久間音楽祭を通じて知り合うことのできた皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。



ムジーク・フェライン・デア・シュタット・テンリュウ (天竜市民吹奏楽団) 団長 兼子昌之

私は平成6・7年と過去2回、ヤイトラー氏の佐久間町でのコンサートにエキストラとして参加させていただき、彼の卓越した指導力と、指揮棒から引き出されるウィーンの音楽にすっかり虜になってしまいました。

その後、我々もウィーン・スタイルの吹奏楽をやってみようということになり、昨年6月15日に天竜市民吹奏楽団を結成した訳ですが、期せずして結成後半年で「さくま音楽祭」に参加させていただくこととなり、パートごとのレクチャーはもとより、ヤイトラー氏の直接指導やファイナルコンサートでの演奏披露など団体一同大変意味深い2日間でした。

ワルツの3拍子のウィーン独特の拍子の取り方やテンポ、スタッカートぎみの奏法など、普段の我々の練習では表現できなかったニュアンスが、ヤイトラー氏の適切な一言によって表現できた時の喜びはこの上ないものでした。

この様な日本では例のない、貴重で斬新な音楽祭を企画・運営された佐久間町役場の音楽文化に対する理解と先見性、そして、それを支援される町民の皆様へ心からの感謝と敬意を評する次第です。



聴講生

生島 靖

お世辞でも何でもなく、本当に感動いたしました。何よりも、佐久間町の音楽愛好家の方々の情熱とハートに、そしてそれをバックアップしておられるスタッフの方々のご努力に、そして飾らず気さくなヤイトラー先生ご夫妻のお人柄に、深く心を打たれました。

はすかしながら音楽をメシの種にしている私にとって、(オーバーな！と笑われそうですが)生き方や、今までの音楽観すら根本から揺さぶられるような感動を覚えました。



11.17 SUN

●10:30→11:30

さくま音楽祭記念講演会～オーストリアの生活を知ろう～/小ホール

オーストリアの文化を知ってもらおうとフィルハーモニック・ウィンド・オーケストラ・ウィーンのマネージャーでありヤイトラー夫人でもあるクリスティネ・ヤイトラーさんに、教育や家庭について講演して頂きました。佐久間町内の婦人130名が集まり、当日配布されたテキストを片手に興味深く聞き入っていました。



●14:00→16:00

さくま音楽祭記念コンサート/大ホール

さくま音楽祭最後を飾ったフィルハーモニック・ウィンド・オーケストラ・ウィーンの演奏会。会場にははやくから列が並び、立ち見がでるほどの超満員となりました。

本場ウィーンの音色に来場者は酔いしれました。こうして、2日間にわたって行われた、さくま音楽祭は大成のうちに終りを迎えました。



お茶会

会館研修室(日本間)では、日本文化の代表であるお茶会がヤイトラー夫妻を迎えて行われました。

多忙な日程のなかで、心なごむひとときを過ごされご満悦の様子でした。



